

# 日々研鑽

～職員が取得している資格を紹介します～



当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定の分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

放射線技師の認定資格

## 日本血管撮影・インターベンション 専門診療放射線技師

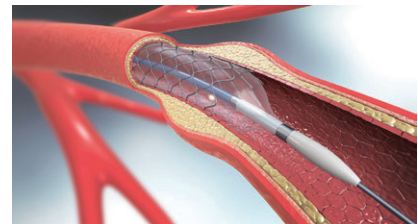


本資格は「日本血管撮影・インターベンション専門放射線技師認定機構」により認定されており、名称が長いのでよく「IVR認定技師」と呼ばれています。

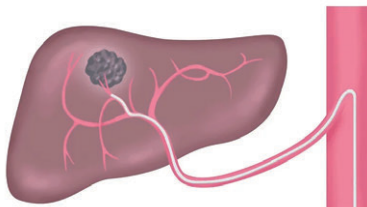
### IVR(アイヴィアール)とは

「インターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology:IVR)」の略で、和訳すると「画像下治療」と言います。皆さまには、「カテーテル治療」などの呼び名でおなじみかと思われます。

CT・MRI・超音波など様々な検査画像を参考にして、エックス線透視を使用してカテーテルや針などを体内の標的(病変)まで進め治療を行います。小さな傷程度で済み、外科的手術よりも低侵襲のため、体に負担の少ない手術手技を行う事ができます。



心臓(冠動脈)IVR イメージ



肝臓(肝細胞がん)IVR イメージ

当院でも心筋梗塞・脳梗塞・クモ膜下出血、消化管出血など血管の「つまり」や「出血」に対して、また肝臓がんなど「がん」に対しても、IVRを行っています。

### 資格取得に必要なこと

- ・通算3年以上の血管撮影に関する診療業務の経験を有すること
- ・過去3年間でIVR 50件以上の症例の経験を有すること
- ・学術成果を5年間で30単位以上取得していること
- ・放射線に関する安全管理及び品質管理の測定データを提出すること

など。

様々な条件をクリアすると、資格取得の試験を受けることができます。試験は年1回のみ。2日にわたり行われます。1日目は約8時間の事前講習、2日目が本試験になります。過去5年間の合格率の平均は約58%です。

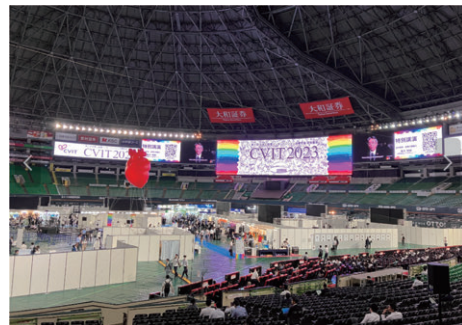
## 試験への備えと苦労したこと

試験内容はIVRに関する知識など、専門的なものから基礎的なものまで多岐にわたって出題されます。特に基礎のなかでも放射線物理学など、大学以来勉強していない教科を、記憶力が衰えつつある頭で覚えるのは、とても苦労しました。

またその他に苦労したのは、5年間で30単位が必要な学術成果の取得でした。学術大会の全国大会の出席で4単位、発表をすると+2単位を獲得できます。年1回の出席だけでは単位不足になるため、積極的に複数の学会の出席、演題発表やシンポジストなどを行い、単位取得と共に多くの経験をさせていただきました。また同じ志を持つ仲間が全国にできたのは、大きな財産だと感じております。

## 資格取得後は

資格期限は5年間のため、取得後は更新に向けての活動に入ります。更新試験はありませんが、必須となる講習と学術成果などの提出は必要になるため、学会発表などは活動的になります。私は昨年に2回目の更新を行いました。



2023年 心血管インターベンション治療学会 総会  
会場 PayPayドーム(福岡)

## IVR認定技師の主な役目

### ①血管撮影およびIVR領域での技術の向上

IVR認定技師として、IVRに関する一層の技術と知識の向上を図ることで、より安全確実なIVR手技をできるように術者のサポートをしていく。

### ②IVRチーム医療の確立

術者(医師)をはじめとする多くの職種が、各々の専門性を活かしながら連携と協力を図り、強固なチーム医療が行われるように努力する。

### ③放射線の安全管理と放射線防護の最適化

患者さんが安心してIVRを受けられるように、撮影装置などの機器管理を含む安全管理を行い、またIVRで生じる放射線被ばくが合理的に低減できるように、スタッフ教育を含めた被曝管理に努める。その成果であるかは不明ですが、IVR認定技師の在籍する病院の被ばく線量は、全国的に低い傾向にあります。

## 資格を取得して変化したこと

IVRに対する情熱は変わりませんが、責任感を強く感じる様になりました。それは、ただの重圧ではなくIVRを広く普及させる事への使命感だと思います。自身を含むスタッフ全体のIVR技術や知識の向上は、強力なチーム医療の構築に繋がり、それは巡りめぐって患者さんへの治療の向上という形でフィードバックすると期待できるからです。また院外では「Metropolitan Co-medical Cardiology Meeting :MCCM」という心臓領域のIVRに特化した、放射線技師、看護師、検査技師、臨床工学技士など、様々な職種が集まる研究会で世話人をさせていただいております。今後も院内だけでなく、首都圏の病院スタッフに対して、IVRの技術と知識の普及に尽力できたらと思っております。

(診療放射線科 主任 鈴木 雅己)